

G3函館スプリントS「全頭診断書」

今年は逃げ馬が複数含まれるフルゲート開催となりそう。
中でも、常に前半3Fを33秒台で引っ張るテイエムトツキュウが
おりますので、超ハイペースの消耗戦を想定致しております。

函館の芝は2016年以降、路盤が硬くなり
速い時計が出やすい馬場に変わりつつあります。

馬場が軽くなった分、前半3Fタイムが速くなり
後半に時計を要する消耗戦ラップが出現しやすくなりました。

その結果、スパイス血統として目立つようになったのが
以下のような役割を持つ血統になります。

- ・ダンチヒ系(持続力強化血統)
- ・大系統ミスプロ系(持続力強化血統)
- ・ストームキャットの血(スピード・持続力強化血統)
- ・ポールドルーラー系(持続力強化血統)
- ・ヘイローやヘイルトゥリーズンのクロス(軽い馬場でのスピード強化)

馬場が軽いと、前に行った馬の負荷が軽くなるため、
止まりにくくなりますので、差しや追込みが届きにくく
4角を5～6番手以内で通過した馬が有利になります。

あと、キャリアの面からは・・・

重賞実績がない馬でも、洋芝実績がある馬には注意。

特に、3勝クラス、OP特別において、
1200～1400mの複勝率が高い馬は

他場の重賞で全く実績が無くても
激走する可能性があるかと判断して、
警戒すべきだと思います。

他には…基本的に短距離の消耗戦ですので、
馬格はあるに越したことはなく、牡馬は480キロ以上、
牝馬の場合は460キロ以上がひとつのボーダーラインと
考えても差し支えないでしょう。

以上の事より、G3函館スプリントSは、
スパイス血統を持つ先行実績馬に注目すべきレースである。
と結論付けて、予想の基本方針とし、全頭診断を進めて参ります。

主な評価項目は…

- ・血統評価
- ・脚質評価
- ・洋芝評価
- ・距離評価
- ・LAP評価

以上を中心に評価して参ります。

全頭診断書

・ウォーターナビレラ(牝4歳/前走470キロ)

父:シルバーステート(ディープ系)

父母父:シルバーホーク(欧ロベルト系)

母父:キングヘイロー(欧リファール系)

祖母父:マヤノトップガン(欧ロベルト系)

ヘイロー4×4クロス

前走の高松宮記念は不良馬場で全く走れず。
消耗戦ラップの1400m重賞ファンタジーSを
勝っているように、消耗戦適性はあるようです。

ただ、父がディープ系であり、加速ラップの桜花賞で
連対している実績から、本領は瞬発戦向きで、
それを考えると2走前の京都牝馬Sは負けすぎで
終わった感をぬぐえないというイメージではあります。

- ・血統評価:C
- ・脚質評価:B
- ・洋芝評価:B
- ・距離評価:C
- ・LAP評価:D
- ・総合評価:C

・カイザーメランジェ(牡8歳/494キロ)

父:サクラオリオン(欧キングマンボ系)

父母父:米ダンチヒ

母父:サクラプレジデント(Lサンデー系)

祖母父:米ヘイルトゥリーズン系

セクレタリアト(米ポールドルーラー系)5×4クロス

ヘイルトゥリーズン5×5クロス

2019年の優勝馬。

スパイス血統を4系統持っております。

父のサクラオリオンは函館記念(札幌開催)の優勝馬。
母の全兄サクラゴスペルは1200m重賞を2勝、
7歳秋のG1スプリンターズSで、11人気2着と激走し、
9歳秋に地方の芝重賞を制覇した超晩成タイプでした。

年齢で消すには少々勇気が要りそうな存在です。

- ・血統評価:A
- ・脚質評価:B
- ・洋芝評価:B
- ・距離評価:C
- ・LAP評価:C
- ・総合評価:要警戒

・カルネアサーダ(牝4歳/前走460キロ)
父:ドレフォン(米ストームキャット系)
父母父:ゴーストザッパー(米ヴァイスリージェント系)
母父:ゼンノロブロイ(Tサンデー系)
祖母父:アンブライドルド(米ファピアノ系/ミスプロ系)
曾祖母父:欧カロ系/グレイソヴリン系
Mr.プロスペクター5×5×5クロス

持続力血統がズラリと並ぶ血統構成で、
本馬自身は、短距離ならば芝でもダートでも走る
いかにも米国指向と言った趣きの競走馬です。

洋芝に関しては、牝系ファミリーも含めて
札幌向きで、これはアンブライドルドの血が
直線のトップスピードを強化する「タメて切れる競馬」
に適性を引き上げる効果がある血統だからと考えます。

もちろん、消耗戦は苦にしないのですが、
消耗戦で末脚の鋭さを活かすと強いタイプで、
函館のような、コーナー角度が小さく、直線が短い
「末脚の鋭さが殺されるコース」には向いていないかも知れません。

- ・血統評価:C
- ・脚質評価:B
- ・洋芝評価:D(札幌向き)
- ・距離評価:B

- ・LAP評価:B
- ・総合評価:C

・キミワクイーン(牝4歳/前走440キロ)
父:ロードカナロア(欧キングマンボ系)
父母父:米ストームキャット
母父:ダイワメジャー(Pサンデー系)
祖母父:サクラバクシンオー(欧プリンスリーギフト系)
ストームキャット3×5クロス
ノーザンテースト4×5クロス

ロードカナロアは、コースのダントツリーディングサイアー。
ストームキャットとプリンスリーギフトにより持続力を強化。
ノーザンテーストのクロスを持つ事で、底力を強化されており、
タフな競馬になるほどパフォーマンスが上がる血統馬です。

小柄な牝馬と言うのが少し引っ掛かりますが、
タフさはノーザンテーストで十分に補われており、
小柄だから消しと言う訳にはなりません。

- ・血統評価:A
- ・脚質評価:A
- ・洋芝評価:B
- ・距離評価:B
- ・LAP評価:A
- ・総合評価:B+

・サトノアイ(牝5歳/前走454キロ)
父:ハーツクライ(Tサンデー系)
父母父:トニービン(欧グレイソヴリン系)
母父:キャッチャーインザライ(欧ダンチヒ系)
祖母父:ディストーティドヒューマー(米フォーティナー系)
ダンチヒ4×5クロス

- ・血統評価:C
- ・脚質評価:C
- ・洋芝評価:B
- ・距離評価:D
- ・LAP評価:C
- ・総合評価:D

ジャスパークローネ(牡4歳/前走486キロ)

父:フロステッド(米APインディ系)

父母父:デピュティミニスター(米ヴァイスリージェント系)

母父:キトゥンズジョイ(米サドラーズ系)

祖母父:ゴーストザッパー(米ヴァイスリージェント系)

曾祖母父:APインディ(米ボールドルーラー系)

デピュティミニスター3×5クロス

APインディ4×4クロス

クロスで保持する2本の血統が

ダート向きのパワーも強化してしまう血統で、
軽い馬場のハイペースによる消耗戦よりも、
タフな馬場で上りが掛かる競馬の方に
適性が高い配合馬という認識です。

2015年以前の函館の時計を要する馬場ならともかく、
近年の軽い馬場の北海道にはあまり合わないイメージです。

- ・血統評価:D
- ・脚質評価:B
- ・洋芝評価:D(道悪で一考)
- ・距離評価:C
- ・LAP評価:C
- ・総合評価:D

・ジュビリーヘッド(牡6歳/前走474キロ)
父:ロードカナロア(欧キングマンボ系)
父母父:米ストームキャット
母父:ディーピンパクト
祖母父:セーヴルロゼ(欧ニジンスキー系)
曾祖母父:欧カロ系/グレイソヴリン系

今年の2着馬。

函館は非常に相性が良く、3戦3連対。
札幌でも2戦1勝と適性を示しており、
ロードカナロアとフランス牝系の配合が
絶妙な洋芝適性を生み出したと言うイメージです。

短距離戦での絶対的なスピードを強化する血を
父のロードカナロア以外には持っていないので、
他場の重賞ではスピード能力が少し足りない印象ですが、
洋芝なら重賞でも通用するのだと感じています。

・血統評価:C
・脚質評価:B
・洋芝評価:A
・距離評価:A
・LAP評価:B
・総合評価:B

テイエムトッキュウ(牡5歳/前走502キロ)
父:ロードカナロア(欧キングマンボ系)
父母父:米ストームキャット
母父:サクラバクシンオー(欧プリンスリーギフト系)
祖母父:サンデーサイレンス

ロードカナロア×バクシンオーの配合は、
1200mのニックス配合ですが、本馬の場合は
適性がダートに出てしまっております。

前走ダートから馬券に絡んだのは、
芝1200mのOP特別勝ち実績があった
ダイメイフジだけで、その他の「前走ダート組」は
全滅しております。

本馬は、芝では2勝クラスまでしか走れておらず、
3勝クラスでは2戦して惨敗を繰り返しており、
ここでいきなり芝重賞で通用するかは甚だしく疑問。

- ・血統評価：B
- ・脚質評価：B
- ・洋芝評価：E
- ・距離評価：E
- ・LAP評価：B
- ・総合評価：D

・ディヴィナシオン(牡6歳/前走478キロ)

父：ヴィクトワールピサ(Tサンデー系)

父母父：マキャベリアン(欧ミスプロ系)

母父：ストリートセンス(米ミスプロ系)

祖母父：フライングスパーク(欧ダンチヒ系)

Mr.プロスペクター4×5×5クロス

ヘイロー4×5クロス

マキャベリアン3×4クロス

ヴィクトワールピサとマキャベリアンの影響が強く、
減速幅が大きな消耗戦には向いていない印象。

1200m重賞で2着の実績はありますが、
そのレースも持続ラップのレースで、超内有利馬場の
1枠と馬場にも恵まれた結果でした。

- ・血統評価：C

- ・脚質評価:D
- ・洋芝評価:E
- ・距離評価:B
- ・LAP評価:D
- ・総合評価:D

・トウシンマカオ(牡4歳/前走462キロ)

父:ビッグアーサー(欧プリンスリーギフト系)

父母父:キングマンボ

母父:スペシャルウイーク(Tサンデー系)

祖母父:ウッドマン(米ミスプロ系)

Mr.プロスペクター4×4クロス

ニジンスキー5×4クロス

ビッグアーサー産駒がこのレースに出るのは初めてですが、函館1200mには非常に適性が高い種牡馬で、函館2歳Sも同産駒のプトンドールが制しております。

※【5・3・4・12/24】複勝率50%

LAP適性は幅が広いタイプのように、消耗ラップのオパールSと、持続ラップの京阪杯を連勝しております。

洋芝は札幌G3キーンランドカップ4着の1戦だけですが、その時は「内枠有利馬場」の大外枠という枠順不利。

2走前のシルクロードSも同様に「内枠有利馬場」の大外枠。

前走の高松宮記念は、特殊な馬場で溺れておりました。

明確な敗因が無ければ堅実に走るタイプと言う印象で、父の産駒のコース適性の高さを考えると、重い印が妥当でしょう。

- ・血統評価:B+

- ・脚質評価:C
- ・洋芝評価:血
- ・距離評価:B
- ・LAP評価:B
- ・総合評価:B+

・ブトンドール(牝3歳/前走486キロ)

父:ビッグアーサー(欧プリンスリーギフト系)

父母父:キングマンボ

母父:スイフトカレント(Lサンデー系)

祖母父:ジェネラス(欧ニジンスキー系)

Mr.プロスペクター4×5クロス

父ビッグアーサーは高松宮記念をレコード勝ち。
1200mを主戦場とした典型的なスプリンターでした。

産駒にもその傾向は色濃く受け継がれており、
勝ち星の77%が1200mでのものとなっております。
特に牝馬の場合は短距離指向が強くなる傾向があります。

1200mの中でも、コーナー角度がタイトな
ローカルの1200mに滅法強く、北海道でも
札幌1200は不振ですが、函館1200は
大の得意コースとなっております。

ブトンドールも例にもれず、当コース新馬戦と
函館2歳Sを連勝しており、1400m以上での
勝ち星を挙げるには至っておりません。

函館2歳Sは稍重馬場の影響もあり、
ラスト3Fが「減速1.2秒」と、超のつく消耗戦で、
タフな競馬への耐性は、祖母父ジェネラス譲りだと
考えております。

不安材料としては、開幕週の良馬場で
時計が速くなると、スピード強化の血が薄い
この馬が勝ち切れるかどうか？だと考えます。

とは言え、前走が1600mG1だった3歳牝馬は
複勝率が75%に及ぶレースですので、
馬券からは絶対に消せない存在と申せましょう。

ちなみに本馬は、マイ注目馬に
「ローカル1200m限定」の条件で登録しています。

- ・血統評価：B
- ・脚質評価：C
- ・洋芝評価：A
- ・距離評価：A
- ・LAP評価：A
- ・総合評価：B+

・ムーンプローブ(牝3歳/前走472キロ)

父：モーリス(欧ロベルト系)

父母父：カーネギー(欧サドラーズ系)

母父：フジキセキ(Pサンデー系)

祖母父：ピアンコーニ(米ダンチヒ系)

サンデーサイレンス4×3クロス

ダンチヒ5×4クロス

モーリス産駒の牝馬は、函館1200mでの
回収期待値が高く、単回率259%/複回率172%

本馬は1200m戦は初めてになりますが、
前後半3Fのタイム差が「減速2秒6」と言う
超消耗戦ラップとなったG2フィリーズレビュー1400mで
中団から上り3位の末脚を発揮して、勝ち馬に0秒1差の
2着に好走しており、高いスプリント適性の片鱗を見せました。

この消耗戦適性は、母父に消耗戦耐性を強化する
フジキセキを持つ事と、ダンチヒのクロスを保持する事で
実現したものだと考えております。

- ・血統評価：B
- ・脚質評価：C
- ・洋芝評価：血
- ・距離評価：注
- ・LAP評価：A
- ・総合評価：B

・リバーラ(牝3歳/前走434キロ)

父：キンシャサノキセキ(Pサンデー系)

父母父：欧リポー系

母父：ストーミーアランティック(米ストームキャット系)

祖母父：ライ(米ブラッシンググループ系)

リファール4×4クロス

ヘイロー4×5クロス

キンシャサノキセキは、年々ダート種牡馬化が進む
短距離型の種牡馬です。

これは、近代のスピード競馬が、キンシャサノキセキには
合っておらず、芝で通用するクラスが低下して
上級条件の芝ではスピード不足となるため、
ダートに活路を求める産駒が増えたからだと考えられます。

2018年以降の芝1200m重賞(G3)に出走した
キンシャサノキセキ産駒は16頭で、馬券に絡んだのは
2021年G3函館2歳Sの2着馬カイカノキセキのみ。

よって、雨やスローペースの恩恵がなければ、
時計的に苦戦を強いられる可能性が高そうです。

実際、本馬が優勝したG3ファンタジーS1400mは、短距離戦としては穏やかな展開に恵まれ逃げ切ったもので、勝ち時計も基準タイム以上の平凡なタイムでした。

旧来のような時計の掛かる洋芝ならば通用しそうですが、近年の函館のように、時計が速い馬場になると苦戦しそう。

- ・血統評価:C
- ・脚質評価:B
- ・洋芝評価:時計掛かれば
- ・距離評価:C
- ・LAP評価:D
- ・総合評価:C

レイハリア(牝5歳/前走462キロ)

父:ロードカナロア(欧キングマンボ系)

父母父:米ストームキャット

母父:マンハッタンカフェ(Tサンデー系)

祖母父:トニービン(欧グレイソヴリン系)

母系の配合が中距離指向のものであり、この馬がG3キーンランドカップ(札幌1200)を勝った事が、未だに理解できないのですが…
3歳牝馬の51キロと言う斤量の恩恵だったのか？

いずれにしろ、父がJRA芝1200のリーディングサイアーロードカナロアである事以外に、強調材料がなく、牝系ファミリーも函館が苦手コースとなっている事からも、買い材料に乏しいと考えております。

しかしながら、昨年当レースは、差し有利馬場の超ハイペース消耗戦を、先行して3着馬と同タイムの4着に健闘している点は、突然変異の北海道巧者である可能性を否定しきれない所です。

- ・血統評価:C
- ・脚質評価:B
- ・洋芝評価:要注意
- ・距離評価:C
- ・LAP評価:B
- ・総合評価:激走に注意

・ヴァレトニ(セン馬5歳/前走450キロ)

父:グラスワンダー(欧ロベルト系)

父母父:米ダンチヒ

母父:サンデーサイレンス

祖母父:Mr.プロスペクター

曾祖母父:カロ(欧グレイソヴリン系)

ヘイルトゥリーズン4×4クロス

母チアフルスマイルはキーンランドカップ優勝馬。

兄弟姉妹の当コース複勝率は71.4%

牝系ファミリーもコース巧者(出走22回/複勝率50%)

曾祖母は牝馬ながらもケンタッキーダービー馬。

本馬自身も北海道は5戦して全て3着以内の洋芝巧者で、札幌の1勝クラスでレコード勝ちを収めています。

ただ、消耗戦に向くタイプではなく、持続ラップの方に適性が高いタイプ。

今回は、メンバー的に前半が速くなりそうで、消耗戦になる可能性が高く、その点が不安材料でしょう。

- ・血統評価:B
- ・脚質評価:B
- ・洋芝評価:A
- ・距離評価:B
- ・LAP評価:D

・総合評価:C+

・ヴィズサクセス(牡6歳/前走486キロ)

父:シューニ(欧ヌレイエフ系)

父母父:デインヒル(欧ダンチヒ系)

母父:ダルシャーン(欧ネヴァーヴェンド系)

祖母父:欧ノーザンダンサー系

曾祖母父:米ポールドルーラー系

父シューニは仏国の1400mG1馬。

その産駒の距離適性は圧倒的に芝1200mで、
勝ち星の60%を占めています。

特に函館1200mは好相性で、複勝率67%/複回率104%

牝系ファミリーも函館は得意で、複勝率47.1%/複回率102%

本馬自身も当コースは4戦3連対と優秀ですが、
良馬場での消耗戦ラップに対する耐性は決して高くはなく、
どちらかと言えば、母父ダルシャーンの影響を受け、
雨馬場で上り時計が掛かるレースが合っているイメージです。

・血統評価:C+

・脚質評価:B

・洋芝評価:A

・距離評価:B

・LAP評価:D

・総合評価:C